

第9回アジア-オセアニア生理学会大会 (FAOPS Congress 2019) の日本開催について

このたび、2019年度FAOPS Congressを日本で開催する事が正式に決定しました。招致準備委員会を代表し、応援して下さいの皆様方に御礼申し上げますとともに、今後のご支援をお願い致します。今回の招致決定に至るまでの経緯につきまして報告いたします。

FAOPS 2019への立候補は平成22年12月の常任幹事会にて提案され、承認されました。そして平成23年3月の常任幹事会において、岡田会長より、日本とイランが立候補していることが報告されるとともに、招致準備委員会の立ち上げが提案されました。そして、鯉淵を委員長に、大阪大学岡村康司先生、東京女子医科大学三谷昌平先生、および岡崎統合バイオサイエンスセンター富永真琴先生ならびに生理学研究所鍋倉淳一先生が岡田先生より推薦され、承認されました。

招致準備委員会の業務として、生理学会大会の大会長も兼ねた組織委員長と開催都市の選出、招致パンフレットの作成、およびFAOPS台北大会(2011年9月)におけるGeneral Assemblyでの招致プレゼンテーションを行うということもその場で承認されました。

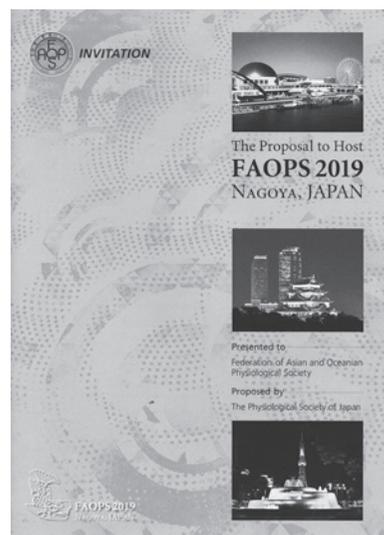
以降、岡崎に2名の委員がいたため、生理学研究所で招致準備委員会の会議を行う事とし、計4回の会議を実施しました。第一回の会議において、FAOPSの候補地としては名古屋(名古屋国際会議場)を、組織委員長としては鍋倉先生を選出しました。日程はラマダンと重ならないように、7月25日~28日としました。また、仮のプログラム委員を岡村先生(委員長)と三谷先生(副委員長)、財務担当を富永先生、そして総務担当を鯉淵とし、招致パンフレット原稿の作成に入りました。パンフレット作成や資料収集のために業者を選定する事となりましたが、提出期限が8月第一週とタイ

トだった事もあり、相見積もりはとらず、IUPSの際に業務委託した日本コンベンションサービス(JCS)に業務の一部を委託しました。そして第2回の委員会以降会議にも出席していただきました。さらに、IUPS招致や運営を参考にするため、金子章道先生や宮下保司先生からもご意見を伺い、運営骨子を作成しました。大会の仮テーマは「Philosophy of Life ; Function and Mechanisms」に決定しました。

委員会によって固めた骨子は、7月14日の常任幹事会緊急メール会議により、ご承認いただきました。

各委員の努力により、パンフレットのpdf版は、なんとか8月第一週に間に合い、送付する事が出来ました。その後、プレゼンテーション原稿の作成に移り、出発までに完成する事が出来ました。

プレゼンテーションは15分間で、9月11日、午



招致パンフレット表紙

前中の Council Meeting で一回、午後の General Assembly で一回の計 2 回行われました。当日になって、イランの代表にビザがおりず、代表が来ていない事がわかり、イランは事前配布の書類のみでの審査になってしまいました。フェアに闘いたいと思っていた我々には少々残念でした。午前中の Council Meeting では発表後にプログラムの内容、予算の妥当性、名古屋を選択した理由（「名古屋の夏は暑い！」という意見などもありました）について質問を受けましたが、特に応えに窮するようなものはありませんでした。General Assembly は Council Member に加えて、各国の Delegate も参加しており、投票が行われました。その結果、26 対 2 の大差で日本開催が決定しました。

FAOPS の招致は決定しましたが、8 年後の生理学会が、更には日本がどのような状態になっているのか、現状で予測するのは非常に難しい状況にあります。生理学会の財政状態も、余裕を持って FAOPS を迎えられる状態にあるとは到底思えません。今後、生理学会の会員の皆様方には色々なご支援を頂くことになります。何とぞよろしくお



招致決定直後の招致準備委員
(向かって左から) 三谷委員, 岡村委員, 鍋倉委員,
鯉淵, 富永委員

願い申し上げます。

FAOPS 招致準備委員会委員長 (群馬大学大学院
医学系研究科応用生理学)

鯉淵典之